

# 高等学校 新学習指導要領アンケート

## —カリキュラムと指導法

文英堂 編集部

いよいよ来春には、平成25年度から使用される新しい教科書見本が先生方のお手元に届けられ、夏には多くの候補の中から採択教科書を決めなければなりません。教科書決定の大前提としてカリキュラムが決まっている必要がありますが、まだこれから本格的検討をするという学校も多いと思います。

小誌では昨秋、新カリキュラム案に関して、現場の先生方のご意見を伺ったアンケート結果をご紹介します。さらに、今年の春から夏にかけて小社営業部員を通じて全国の先生方に新指導要領に関するアンケートへのご協力をお願いいたしました。たくさんのご協力をいただきまして誠にありがとうございました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。以下に集計結果をご紹介します。今回のアンケート結果は、習熟度が高めの上位校、および中堅校の2つに分けてご報告いたします。

### ◆カリキュラムについて

#### <指導要領の規定>

すでにご承知のこととは思いますが、履修パターンとして「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、「Ⅰ」を終えてから「Ⅱ」を、「Ⅱ」を終えてから「Ⅲ」を学習することになっています。「英語表現Ⅰ・Ⅱ」に関しても同様です。なお、「英語会話」の履修時期については特に規定はありません。

「英語基礎」と「英語Ⅰ」は同一学年で採用することはできますが、並行学習は認められていません。つまり、「英語基礎」を終えた後でなければ「英語Ⅰ」の学習を始めることができません。このカリキュラムをお考えの学校におかれましては、その点にご注意いただく必要があります。

#### <上位校のアンケート結果>

##### A. 上位校の新カリキュラム案で最も多かったパターン **【49.3%】**

	英語基礎 (2)	コミュニケーション 英語Ⅰ(3)	コミュニケーション 英語Ⅱ(4)	コミュニケーション 英語Ⅲ(4)	英語表現 Ⅰ(2)	英語表現 Ⅱ(4)	英語会話 (2)
1年		○			○		
2年			○			○	
3年				○		○	

(注) 科目の後ろの数字は標準単位数を表します。

ご回答いただいた上位校のうち、上表のようなパターンを予定している学校が全体の49.3%、すなわち、ほぼ半分という結果になりました。このように、コミュニケーション英語と英語表現の主要2系統をフルに学習する学校が多いことが予想されます。

##### B. 上位校で2番目に多かったカリキュラムのパターン **【19.7%】**

	英語基礎 (2)	コミュニケーション 英語Ⅰ(3)	コミュニケーション 英語Ⅱ(4)	コミュニケーション 英語Ⅲ(4)	英語表現 Ⅰ(2)	英語表現 Ⅱ(4)	英語会話 (2)
1年		○					
2年			○		○		
3年				○		○	

このパターンの特徴は、「英語表現Ⅰ」を2年生、「英語表現Ⅱ」を3年生で履修させるという点です。アンケート回答校のうち全体の約5分の1の学校がこのパターンを考えられているようです。このパターンを予定されている学校の中には、「英語会話」を1年生で採択する場合もあるようです。

<中堅校のアンケート結果>

A. 中堅校の新カリキュラム案で最も多かったパターン **【31.5%】**

	英語基礎 (2)	コミュニケーション 英語 I (3)	コミュニケーション 英語 II (4)	コミュニケーション 英語 III (4)	英語表現 I (2)	英語表現 II (4)	英語会話 (2)
1年		○			○		
2年			○			○	
3年				○		○	

中堅校の中でも、上位校のAと同様に上表のようなパターンが一番多いですが、上位校ではほぼ半分を占めたのに対し、中堅校ではほぼ3分の1です。ちなみに、今回のアンケートでご回答いただいた上位校・中堅校を合わせますと、このパターンでの採択を予定されている学校は41.4%となりますが、各校とも学校の教育方針や生徒さんの学力などから、まだまだ検討を重ねておられるようです。

B. 中堅校で2番目に多かったカリキュラムのパターン **【12.2%】**

	英語基礎 (2)	コミュニケーション 英語 I (3)	コミュニケーション 英語 II (4)	コミュニケーション 英語 III (4)	英語表現 I (2)	英語表現 II (4)	英語会話 (2)
1年		○					
2年			○		○		
3年				○		○	

2番目に多いパターンも上位校と同じでした。「英語表現」を2年生から履修し始めるのが特徴です。このほかに、中堅校で特徴的だったカリキュラムをさらに2つご紹介します。

C. 中堅校の多様なカリキュラムのパターン① **【12.2%】**

	英語基礎 (2)	コミュニケーション 英語 I (3)	コミュニケーション 英語 II (4)	コミュニケーション 英語 III (4)	英語表現 I (2)	英語表現 II (4)	英語会話 (2)
1年		○					
2年			○				
3年				○			

前出Bのカリキュラムと同じパーセントを占めるこのカリキュラムは、「英語表現」を採択しないパターンです。ただしこの場合でも、「英語表現」を選択科目に設定している学校はありました。

D. 中堅校の多様なカリキュラムのパターン② **【7.0%】**

	英語基礎 (2)	コミュニケーション 英語 I (3)	コミュニケーション 英語 II (4)	コミュニケーション 英語 III (4)	英語表現 I (2)	英語表現 II (4)	英語会話 (2)
1年	○	○					
2年			○				
3年				○			

「英語基礎」から履修を始めるパターンです。今回の小社のアンケートでは7%と、さほど大きな比率ではありませんでしたが、習熟度が低めの生徒さんが多いほど、このパターンを採用する率が高いのではないかと予想されます。

今回ご紹介した代表的なカリキュラム以外にも、各学校のご事情により様々な履修パターンがありましたが、紙幅の関係ですべてをご紹介することはできませんでした。全体的には、「コミュニケーション英語」と「英語表現」を中心に採択し、「英語基礎」の採択率は低く、「英語会話」は選択科目として採用されることが多い、ということが見えたカリキュラムについてのアンケート結果でした。

### ◆指導法について

カリキュラム以外でご参考になりそうな項目として、指導法についてご紹介いたします。

まずは「コミュニケーション英語」を指導される際、どこに重点をおいて授業を行うかを伺ったところ、下表のように上位校・中堅校ともに「リーディングと文法中心」が最も多い結果となりました。次に多かったのが「リーディング中心」で、中堅校においては以上2つの比率が拮抗しています。このような結果が出たことは、先生方が「コミュニケーション英語」に「コミュニケーション」という名がついているにもかかわらず、おそらく大学受験を意識されて、従来の「英語Ⅰ・Ⅱ」や「リーディング」を踏襲した形での指導を考えておられるものと思われる。

コミュニケーション英語における指導	上位校	中堅校
リーディング中心	30.3%	22.9%
リーディングと文法中心	42.8%	25.0%
スピーキング等の発信型を重視	5.3%	6.2%
4技能の統合	8.9%	4.1%

次に、多くの先生方が関心のある「文法」のご指導についても伺いました。上位校・中堅校ともに、「コミュニケーション英語Ⅰ」「英語表現Ⅰ」でのご指導が拮抗しています。ただし、下表の「どの科目で」の項の比率合計値が低いことから分かるように、現時点では未定の学校が多いようです。また、使用教材としては「文法準教科書」を利用する率が圧倒的となっています。

文法の指導		上位校	中堅校
どの科目で	コミュニケーション英語Ⅰ	28.5%	16.6%
	英語表現Ⅰ	25.0%	14.6%
	英語基礎	0.0%	2.1%
	英文法	3.6%	2.1%
どの教材で	教科書中心	3.6%	14.6%
	文法準教科書中心	60.7%	37.5%
	文法参考書・問題集中心	14.2%	4.2%
	学校独自の教材	1.8%	2.1%

ご承知の通り新学習指導要領には、文法事項に関して「『コミュニケーション英語Ⅰ』においては、言語活動と効果的に関連付けながら、…すべての事項を適切に取り扱うものとする」という記述があります。1年次から高校で学習する主要な文法事項がすべて含まれることになるわけです。これにより、1年次における文法学習が今まで以上に重要になります。その一方で、「コミュニケーション英語Ⅰ」ではなく、「英語表現Ⅰ」の中で文法学習の時間を確保するという学校が相当に多いことが注目されます。

以上、カリキュラムと指導法のアンケート結果をご紹介しましたが、御校における授業計画の作成に少しでもお役に立てましたら幸いです。□